



学校だより

ウルムス

平成26年9月30日

10月号

横浜市立釜利谷南小学校

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.citv.vokohama.ip/sch/es/kamarivaminami/>

校長 田中 綾子

実りの秋

「校長先生、今子どもたちに人気のある木の実がてっぺんに数個ついているだけになりましたよ。」と知らせてくれたのは、技術職員(用務員)の石井さんです。

釜利谷南小学校には山口さんと石井さんの2人の用務員さんがいます。窓やトイレの清掃、ごみ分別計画から廃棄、設備の修理など整備・整美に関わる仕事をしています。何かの作業や修理したり作ったりしていることに興味関心をもつ子どもたちです。さまざまな場面の会話を嬉しそうに話してくれます。

4月、草取りをしている石井さんに、1年の花壇に水やりに来た2年生が

「私は花の水やり当番です。石井さんは1年間、草取り当番なの？」

9月、ちょうち池の枠をコンクリートで造り直している山口さんに、3年生が

「タイルは砂のりでくっつけるんだね！」

子どもたちの素直さや発想の豊かさに、一層仕事に対する誇りとやり甲斐を感じるということです。

また、4年生では校庭の樹木の枝が「みんなでどどんつないで結んで」の作品になりました。

図工専科の清水先生が剪定した枝を予約しておいたのです。

自然木を使った作品は廊下に掲げられました。

修理された
ちょうち池



作品を廊下展示準備



さて、橡(とち)の木のことです。毎年9月頃になると、体育倉庫の横にある橡の木に実がつくことは知っていましたが気づくと厚い皮がころがっているだけで実を見たことがありませんでした。今年は全校で紹介したくて石井さんに見つけたら届けてくれるよう頼んでおきました。数日後、届いた橡の実はまるまるとして茶色の皮が光っていて栗のようでした。

橡の木といえば「モチモチの木」です。斎藤隆介さん作、滝平二郎さんの切り絵で有名な絵本は3年下の教科書に教材として載っています。

朝会での話に、6年生から4年生は思い出しながら聞いていました。

主人公である5歳の男の子おくびょう豆太が、じさまのために勇気を出す物語。

「にんげん、やさしささえあれば、やらなきやならねえことは、きっとやるもんだ…」

最後にじさまががんばった豆太に言って聞かせるこの言葉は、作者から私たちへのメッセージでもあります。



「豆太は見た」

霜月二十日の晩モチモチの木に灯がともるといふ言い伝え

秋の夜長、絵本もよし教科書もよしぜひ読んでみてください。

釜南小の図書館ではサポートチームの皆さんや杵築司書さんが

図書館環境を整え、楽しい工夫をして子どもたちの来館を待っています。

家族でも読書の秋を満喫してください。

物語の
手作りモビール



仲秋の名月
コーナー



四季のはっきりしている日本は、春夏秋冬その季節の旬の食べ物があります。学校では学年に応じて花を育てたり野菜や米作りをしたりしています。学習の秋、食欲の秋です。

2年生や個別支援学級では1年を通じて野菜を育て、様々な発見や育てる経験を絵日記や感想文や絵に表現しています。7月には、とまとやおくら、きゅうり、なすなどの夏野菜を収穫し夏野菜カレーを料理して食べました。旬の野菜はおいしい栄養も豊富だそうです。廊下には自分と育てた野菜を中心にした絵が掲示されています。今はきれいに耕された畑に、どのような冬野菜を植えてそだてるか計画も進んでいるようです。

5年生は米作りです。実りの秋を迎え、9月22日には稲刈りをしました。鎌を使って刈り取りました。米の八十八手間といわれるようにたくさんの手間をかけ大切に育てた稲です。干してある稲が釜南米になるまでまだいくつの手間をかけるのでしょうか。社会と総合の学びの旅は続きます。

4年生のゴーヤ、実は緑色
ぴかぴか輝いています

鎌を使って稲刈り
刈ることと安全指導のをしてくださる山木様

